

コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会

第2回全体委員会 議事要録

日 時：平成24年12月14日（金）15時～18時

場 所：JCI 第5会議室（11F）

出席者：

（委員）杉山央、有川智、大久保孝昭、中村秀明、荒金直樹、上田洋、江里口玲、
草野昌夫、古賀純子、鈴木澄江、角倉英明、田沼毅彦、西田朗、渡邊悟士
（事務局）岡田遼

資料：

- 全体 No.2-1 第1回全体委員会 議事要録
- 全体 No.2-2 第1回 WG2, WG3 合同委員会 議事要録
- 全体 No.2-3 第1回 WG1（現状技術調査 WG） 議事要録
- 全体 No.2-4 JCI 研究委員会資料 JCI-TC-123A 活動報告
- 全体 No.2-5 WG1（現状技術調査 WG）作業方針
- 全体 No.2-6 トレーサビリティ関連「リスト」
- 全体 No.2-7 トレーサビリティ関連「情報シート」（記載例）
- 全体 No.2-8 WG2（識別技術検討 WG）資料
- 全体 No.2-9 JIS および JASS5 に基づく情報項目の整理（叩き台）
- 全体 No.2-10 旅費の精算方法に関する提案書

1. 全体委員会および各 WG 議事内容の確認

- ・資料 全体 No.2-1～2-3 をもとに、全体委員会および各 WG の議事内容を確認。
- ・11/2 に予定していた第2回 WG1 委員会は延期となった。
- ・WG での議論用として立ち上げた Web サイトを今後は積極的に活用していきたい。

2. JCI 研究委員会での活動報告の確認

- ・資料 全体 No.2-4 をもとに、JCI 研究委員会での活動状況報告（年2回）結果を確認。
- ・本委員会では、充実した HP を作成し、活動状況を随時発信していることをアピール。

3. WG1 の活動状況および今後の方針について

- ・資料 全体 No.2-5～2-7 をもとに、WG1 の活動状況および今後の方針について報告。
- ・作業分担表のとおり領域ごとに担当を分けてトレーサビリティ関連の現状技術と実施

事例を調査し、「リスト」と「情報シート」を作成中。現状、リストは延べ 172 文献、うち 47 文献は重複のため実質 125 文献、情報シートは 20～30 文献分収集済み。今年中は継続して文献抽出を行い、全文献を対象とするかどうかも含めて情報シート作成時の分担を決定。

- ・リストとは別に実施例 7 件、海外での取組み例として「ISO/IEC15963 : 2009 - Information technology - Radio frequency identification for item management - Unique identification for RF tags」などの情報もある。
- ・コンクリート以外の領域に関する調査状況として、経産省・農水省における取り組みについて紹介。商品トレーサビリティの向上に関する研究会中間報告（H15 年 4 月）では、トレーサビリティに関する取り組みを行うべき分野として、建材／住宅／住宅設備も含まれている。食品トレーサビリティに関する情報は、(社)食品需給研究センターHPなどで提供。
- ・リストに記載のものでも文献自体は入手していないものも多い。分野によっては入手困難な文献もあるため、文献収集にご協力頂きたい。ただし、全文献を入手することに固執し、作業の進行に支障が生じることは避ける。
- ・情報シートへの図などの引用の可否は JCI にて確認。情報シートは各文献の著者の意見を尊重したものとし、委員による客観的意見があれば報告書に反映させることを検討する。
- ・WG1 では今年度中にリストおよび情報シートをまとめ、トレーサビリティ確保の目的、対象、手段により類型化して整理。他 WG にも随時情報を流し、連携して作業を進める。

4. WG2 の活動状況および今後の方針について

- ・資料 全体 No.2-8 をもとに、WG2 の活動状況および今後の方針について報告。
- ・個々のコンクリートの識別技術として、①時刻と位置情報による手法、②標識法、③個体特徴による手法などがある。①は大規模な土木構造物など、②はプレキャスト部材などに適しており、③は現状技術では費用対効果が厳しいと考えられる。
- ・①と②の相互補完も期待でき、②は IC タグなど既にも実績もあるので、①について重点的に検討を進める。その一案として、GPS を利用した技術等が期待できる。
- ・上記の識別技術については、WG3 と連携しながら検討を進める。
- ・今後、フィールド実験の実施を視野に入れて作業を進める。

5. WG3 の活動状況および今後の方針について

- ・資料 全体 No.2-9 をもとに、WG3 の活動状況および今後の方針について報告。
- ・JIS および JASS5 に基づいて IC タグに書き込む必要が高いと思われる情報の項目を検討。示方書に関する項目は改定後に追加検討予定。

- ・プレキャスト部材を対象とする場合には、項目が変わってくると思われるため、それについても追加検討が必要。
- ・維持管理に関する項目については、供用期間中に採取した構造体コアなどによるコンクリート強度、中性化深さ、塩化物含有量などの劣化に関する主要な情報だけでも項目に加えると実務に反映させやすい。
- ・仕様書などに記載のない項目についても必要に応じて追加を検討する必要があるが、項目数はデータ容量や関係者の品質への意識（最適であれば意識は高まるが、過剰だと逆に希薄になる危険性あり）、さらにはデータの信頼性にも影響を及ぼすため、必要最小限に抑える。
- ・データ容量やデータの紛失の危険性なども考慮してどこにデータを保管するかについて精査する必要がある。
- ・記録データが増えると確認が大変になるため、合否判定も自動で行うシステムも同時に構築すれば便利になると思われる。ただし、自動判定は確認者の個別データへの意識を低下させ、過去の構造計算書偽造問題のような状況を助長する危険性もあるため、十分な検討が必要。

6. その他

- ・本委員会の今後のスケジュールは以下のとおりとする。

第2回 WG1：平成25年2月25日（月）13:00～15:00

第3回全体委員会＋各 WG：平成25年3月28日（木）11:00～17:00

以上